

2023（令和5）年度 学校評価の重点目標・評価項目・評価の観点

校教育方針	中・長期目標	次年度への課題
<ul style="list-style-type: none"> ・本校は、教育基本法並びに学校教育法に則り、新しい時代に相応しい健全な家庭人、有能な社会人として、教養豊かなる女性教育を育成することを目的とし、特に仏教精神を基盤とした情操道義の教育に重点をおく。 ・建学の精神「うつくしく生きる」を基とした教育活動を行う。浄土真宗の教えに基づいた仏さまの教えを通して「大切にされているわたしに目覚めていのちを輝かせる」教育活動を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いのちの教育」「こころの教育」を理念に据え、「人間力」を養い「学力向上」を実現する教育を実践する。 ・通いたくなる学校、安心して学習ができる環境をつくり、社会の一員として「生きる力」を育む。 ・地域から愛され、選ばれる学校になる。 	
	<p>今年度の重点目標</p>	<p>次年度への課題</p>
	<ol style="list-style-type: none"> 1 新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行にともない、コロナ禍での体験や経験を生かして、コロナ禍以前の学校運営を振り返り、新たな学校運営を検討する。 2 基礎学力の定着を図る添削指導や授業を心掛け、自学自習の学びが身に付けられるようにする。 3 生徒と教職員間関係を良好に保ち、不安や悩みを持つ生徒が安心して相談しやすい雰囲気を作る。それとともに生徒数増に伴う教室の整備をしていく。 4 家庭との連携を深めるとともに、地域の方々との連携による学習活動を工夫して地域理解を深める。 	

【達成度 A：ほぼ達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：不十分】

分野	重点項目 (具体的な取り組み)		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
全般	建学の精神 ・「いのちの教育」「こころの教育」を通してまわりからの「働きかけ」や「いのちの尊さ」に眼を向ける。 校長講話(始業式、終業式、課程変更式、転入学式)・釈尊降誕会・報恩講・特別活動、ホームルームを実施。	1	学校生活(授業・行事・特別活動など)において、建学の精神を基とした活動ができたか。			
	基本：BASE ・B 課題レポート提出状況の把握と提出指導 ・A 生徒の個々に応じた教員からの挨拶や声かけ ・S 掃除をする時間を作るなどの工夫をし、美化に取り組む姿勢を育む。 ・E 登校した生徒が安心して生活できる環境作り	2	普段から B(勉強)A(挨拶)S(掃除)E(笑顔)を意識し、学校生活を送ることができたか。			
	南無阿弥陀仏の教え ・「大切にされているわたしに目覚めていのちを輝かせる」教育活動を丁寧実践していく。	3	「私にかけられた願い」に気づき、感謝の心を持って、生き生きとした生活を送ることができたか。			
学習指導	教育課程 ・旧課程と新課程が混在するので丁寧に運用していく。三観点別学習状況の評価の在り方を考えていく。	4	生徒の実態に即して新教育課程の編成およびレポート作成ができたか。			
	添削指導および授業の工夫・改善 ・生徒の興味関心を大切にしながら基礎学力の定着を図る添削指導や授業を心掛け、自学自習の学びが身に着けられるようにする。	5	添削指導や授業において、わかりやすい説明を心掛け、生徒の興味関心を引き出すことができたか。			
		6	個々の生徒の単位修得につなげられるよう、指導内容や指導方法の工夫、改善を図ることができたか。			

分野	重点項目 (具体的な取り組み)		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
	・自習教室に複数のサポート教員を配置し生徒の質問に応えられるような体制にする。	7	自習教室で学習する生徒に対して、集中できる環境作りができ、レポート課題の提出率が向上したか。			
	・教育のデジタル化を検討・研究していく	8	ICT教育の導入について検討・研究ができたか。			
	家庭との連携 ・保護者との連絡を密にして学校方針を理解していただく。	9	学校からの情報を適宜発信し、家庭との連携を密にして学習状況を共有できたか。			
生徒指導	集団生活のルールとマナー ・まわりへの思いやり気配りができるように促していく。	10	学校生活を送るうえでふさわしい態度やマナーを身に付けさせることができたか。			
	安心・安全な学校づくり ・生徒の変化に気づき、適切な対応を図る。早期発見と予防に努め、声掛け・個別面談を実施していく。	11	生徒の変化を見逃さず初期対応が適切にできたか。			
	・生徒と教職員間の関係を良好に保ち、不安や悩みを持つ生徒が安心して相談しやすい雰囲気を作る。 ・教職員間の情報交換を徹底する。 ・スクールカウンセラー利用の調整や声掛けを行う。 ・必要に応じて専門機関等と連携した組織的な支援体制を構築していく。 ・成人年齢の低年齢化に伴い規範意識を育成する最後の機会ととらえ、心の教育を大切にする。	12	個々の生徒が抱えている課題を共有し、生徒の心の安定をはかる適切な支援ができたか。			
	・年2回の懇談会に加え、必要に応じて保護者との面談を行い生徒への支援につなげる。	13	家庭との連携を密にして、学校教育に対する理解を深めることができたか。			

分野	重点項目 (具体的な取り組み)		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
進路指導	進学・就職指導の充実 ・多様な生徒の特性をふまえて個々に応じた丁寧な指導を心掛けていく。外部の様々な機関との連携を密にして進路実現のための指導をする。	14	個々の進路希望を把握し、情報を適切に伝え、本人の希望・適性にそった指導ができたか。			
	・段階に応じた進路講話、情報の提供により生徒の進路実現につなげる。また、卒業年度の生徒においては早めに対応する。	15	進路ガイダンスを通して、自分自身について考え、進路意識を高めることができたか。			
	・効果的な実施後の振り返りができる体制を整えていく。	16	模擬試験や検定試験などの案内を行い、実施後の効果的な振り返りを行えたか。			
特別活動	特別活動の内容の充実・改善・実施 ・コロナ禍で制限はあるが、感染症対策を徹底し、人間性を育む場面となる校外学習や行事の充実を図る。	17	生徒が興味関心を持ち、主体的に学べる特別活動が実施できたか。			
	・生徒が主体的に参加し学べる特別活動を計画・実施していく。	18	特別活動の内容は適切であったか。			
学校運営	円滑な学校運営 ・職員会等を利用して通信への理解を深めていく	19	学校全体の教育活動が円滑に進むように全日制課程との効果的な連携を図ることができたか。			
	・生徒のデータの管理・編集を徹底するとともに情報共有をしていく。	20	生徒のデータ管理と正確な資料作りにより、校務と各指導を円滑に進めることができたか。			
	・校内施設・設備の不備を点検し、安全で学習しやすい環境づくりに努める。	21	校内施設・設備の不備を点検し、安全で学習しやすい環境づくりのため、改善を図ることができたか。			

分野	重点項目 (具体的な取り組み)		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
	・本校通信制の学びの特徴について周知していく。	22	学校説明会(10月)と学校見学(随時)を実施する。また飯田下伊那地域と上伊那地域で開催される不登校生徒の合同相談会に参加して、本校の情報提供ができたか。			
	開かれた学校づくり ・本校通信制の様子をより知ってもらうために、学校 Web サイトで情報を効果的に発信していく。	23	ホームページに掲載する内容の工夫改善を図り、本校の学びの特徴がわかる情報を提供できたか。			
	・地域の方に来校していただき講演していただくなど生徒の学びを深めるなどの連携を図る。特に総合的な探究の時間においては、地域の方の協力を得られると学びがより深まると考える。	24	保護者や地域との連携強化を図る取り組みを行うことができたか。			

学校関係者評価